



糸のこを使い組み木の型を切り抜いていく。計算し尽くされたデザインには作り手の想いが込められます。

特集① 組み木に込められた想い

作る側と使う側、重なる感動

■ 考えて、触って、遊ぶ「組み木」

人間には、「すき間なくぴったりと重ねたい」という本能のようなものがあるのではないか。組み木の作品を見ると、そう感じずにはいられません。

組み木とは、木片と木片をパズルのように組み合わせ、はめ込んで遊ぶ玩具のこと。形を組む過程で、手、目、頭のすべてを使い、考える、推理する力が試されます。

教師である小黒三郎氏おぐろさぶろうが、触って遊べる教材として考案した組み木には、動物・絵本を題材としたものや雛人形や鯉のぼりといった節句人形などがあります。

■ 「人に喜ばれる」嬉しさ

桂川町に住む太田雅之さんおたまさゆきは組み木づくりを始めて10年。組み木の魅力について「組み合わせても、一つひとつ並べても、作品として絵になる面白さが組み木にはあります」と話します。

太田さんは、定年後、小黒氏の作品に出会い、「自分でも作ることができたら」と、組み木づくりを始めました。桂川町土師に組み木工房「でんでんむし」を構え、小黒氏が会長を務める「組み木創作の会」の会員として、自身で

組み木工房「でんでんむし」

桂川町大字土師 28 - 391
☎ 62・4634 ※訪問時要事前連絡



▲工房には多数の組み木作品が展示されているほか、町立図書館にも展示されています。

作品を作りながら、組み木づくりの指導も行っています。

太田さんは組み木づくりにかける想いについて、「作成した組み木を人に贈るととても喜ばれます。それが嬉しくて、もっと上手に、もっと楽しい組み木を作ろうという気持ちで続けています」と、話します。

太田さんが作成する組み木は、ほとんどが小黒氏がデザインしたもの。「シンプルが良い」という小黒氏の考えから、作品は複雑すぎることなく、



▲桃太郎が題材の組み木。

それでいながら題材の特徴がしっかりと捉えられています。